

令和 4 年 6 月 27 日  
June 27, 2022

大学院学生各位  
To All Graduate Students

令和 4 年度  
**基盤医学特論 開講通知**  
Information on Special Lecture (TOKURON) 2022

**題目：放射線によるゲノム変異とそれに起因する発がんを高感度に  
検出できるマウスを用いた放射線発がん機構の解明**

Title: Mechanism of radiation tumorigenesis using mouse model susceptible to radiation-induced tumorigenesis that can detect radiation-specific genomic signature

**講師：笹谷 めぐみ 先生**

広島大学 原爆放射線医科学研究所 分子発がん制御分野 准教授

Teaching Staff: Dr. Megumi Sasatani, Associate Professor

Department of Experimental Oncology, Research Institute for Radiation Biology and Medicine,  
Hiroshima University

**日時：令和 4 年 7 月 11 日（月）17:00～18:30**

Time & Date : 17:00～18:30, July 11th (Mon), 2022

**場所：環境医学研究所南館大会議室**

Room: S-204 (Meeting Room), South Building, Research Institute of Environmental Medicine  
(Higashiyama Campus)

**言語：日本語 Language: Japanese**

**{特論の概要}**

福島原発事故では、低線量・低線量率放射線被ばくによる発がんリスクに対する科学的知見の不足は、社会不安を生じさせることとなった。現在、ヒト疫学調査からは、低線量域のリスクや線量率効果に関する知見は十分といえず、疫学調査のみによるリスク解明には限界がある。また疫学研究結果から一般的に、子ども期被ばくは、大人期被ばくよりも発がんリスクが高いことが報告されているが、その機構は明らかにされていない。そのため、動物実験で得られる詳細な知見とゲノムレベルでのメカニズム解明は、大規模疫学調査結果を補完することを可能にし、リスク評価が格段に進歩することが期待される。

今回は、原爆被ばく者の疫学研究結果からみえてきた解決すべき課題と我々が行っている実験動物モデルを用いた低線量発がんリスク評価、線量率効果の分子機構解明、放射線発がんにおける被ばく時年齢依存性の解明に関する研究結果について紹介したい。

関係講座・部門等の連絡担当者：環境医学研究所 ゲノム動態制御分野(分子機能薬学) 増田雄司(内線 3871)  
(鶴舞・大幸地区からは、85-3871)

Contact: Dept. of Genome Dynamics, Research Institute of Environmental Medicine.  
Phone: ext. 3871 (or 85-3871 from Tsurumai & Daiko campuses)

[注意] 事前の申込みは不要です。

Notice: No registration required.

医学部学務課大学院掛  
Student Affairs Division, School of Medicine